

南山大学図書館報

ΔΥΝΑΜΙΣ

～デュナミス～

No.37 2000.4.1

文献検索の話題

鈴木敦夫

最近、文献検索の方法が大きく変わってきている。以前は、あるトピックスに関する論文を読みたいときには、そのトピックスに関する紹介論文、または、我々の分野だと、International Abstract of Operations Research (IAOR) のような、論文の要旨だけを掲載した論文誌をあたっていた。これでうまく論文が見つかったら、今度はその論文が掲載されている論文誌が自分の大学の図書館にあるかどうかを調べた。その論文誌があれば、そこからコピーをとり、なければ、図書館にある分厚い目録をみて、その論文誌を購入している他大学の図書館に自分の大学の図書館を通じて論文の複写依頼をする、というのが普通の手順だった。

現在、この手順の半ば以上が研究室のパーソナルコンピュータからコンピュータネットワークを通じてできるようになっている。IAORはINFORMS（アメリカのオペレーションズ・リサーチ、経営科学会）のホームページで公開されており、そこで、キーワードか著者名を入れると論文のリストを手に入れることができる。さらに、その論文が電子出版論文誌に掲載されているならば、そこから、研究室のパーソナルコンピュータに論文のファイルを取り込めばよい。そうでなければ、論文の掲載されている論文誌がどこの大学の図書館にあるか、学術情報センターのデータベースを使って調べる。南山大学ではここからは、図書館に出向いて、参考係のカウンターでお世話になることになる。図書館の係の方は実に親切に対応してくれ、世間話をしながら、必要な論文の情報を用紙に記入し提出する。すると、1週間後には手元に論文が届く仕組みになっている。

さて、このような文献検索の方法で、図書館の

果たす役割はどのようなものであろうか。もちろん図書館の機能は文献検索だけではないが、研究者にとって、文献検索の図書館利用に占める割合は結構高いのではないだろうか。他大学の図書館ではどのような事情か、北海道から沖縄まで、177大学の附属図書館のホームページを北から南へ順番に開いてみた。さすが、文部省が大学院化を進めたような国立大学では、研究者向けに文献データベース、電子出版論文誌も充実している。残念ながら、学外者の利用は認めていないが。東北大学のホームページは素朴な感じ、大阪大学は関西風と結構地方色も出ていて面白い。また、私立大学では、慶応大学図書館のホームページが印象に残った。とくに、日吉図書館のものは、機能もデザインも大変好ましい感じである。意外だったのは、新潟大学、高知大学といった地方国立大学の図書館のホームページが充実していることである。コンパクトにまとめてあって、使いやすそうである。これらの大学のうち、1/4くらいでは、文献の複写依頼、本の購入依頼がホームページからできるようになっており、愛媛大学では、学生も図書館購入の依頼をすることができるようになっていた。

文献検索に関しては、大学の図書館は、電子化した情報をいかに整理して使いやすくし、利用者に提供するかという方向に向かっているようである。いくつかの大学では、所蔵している貴重本の電子化も進めている。電子出版論文誌とあわせると、必要な文献は、研究室にしながら、検索、複写依頼をし、検索した論文や本は電子媒体で送られてくるということに間もなくなるのであろう。

(Atsuo SUZUKI:数理情報学部教授)

南山大学瀬戸図書館

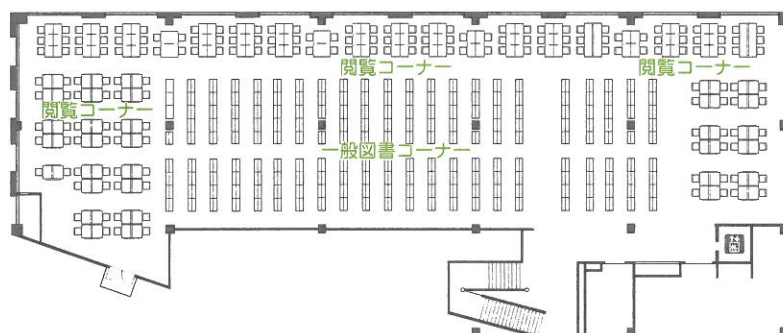
OPEN!
2000年4月3日

南山大学瀬戸キャンパス
(総合政策学部・数理情報学部) に
南山大学瀬戸図書館がオープンします。

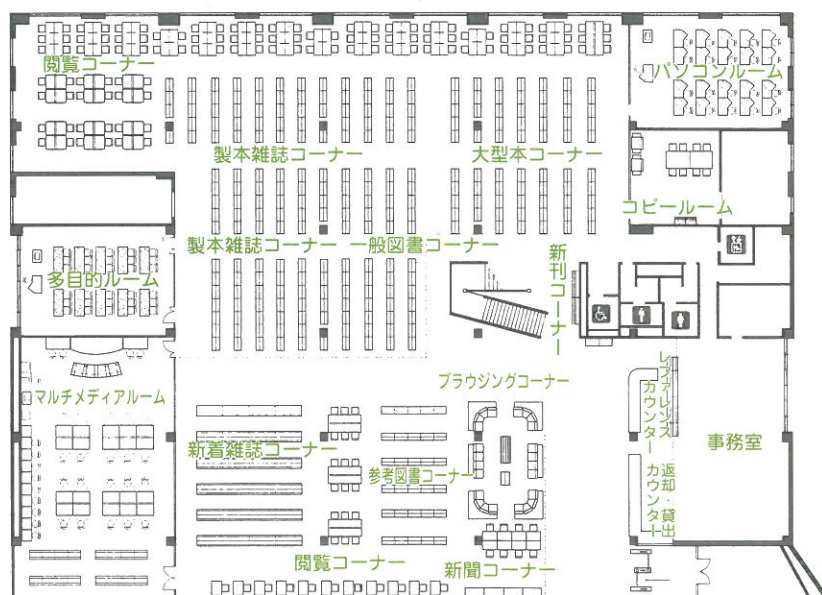
瀬戸図書館は南山大学瀬戸キャンパスのほぼ中央部に位置し、大学正面入口から階段を上り、向かって右側、2階建ての建物になります。緩やかに傾斜する屋上には人工の特殊な土が盛られ、名古屋キャンパスのパッヘスクエアのような学生の憩いの場になる予定です。

約3,000㎡の館内には、約19万冊を収蔵することが可能です。当初は名古屋図書館から移管した図書および雑誌の約4万冊の蔵書からスタートします。

1F

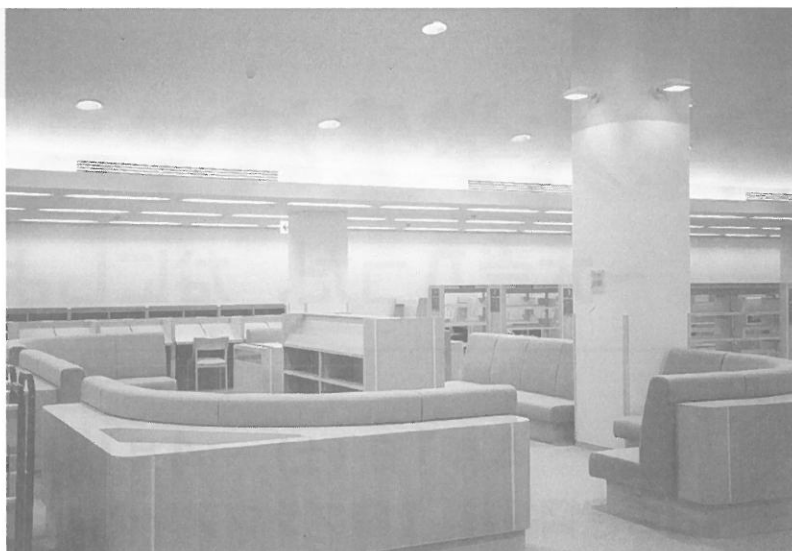


B1F



ブラウジングコーナー

気軽に読める雑誌や話題の本をゆったりとしたソファで…



吹 抜 け

1階閲覧室から地下1階を見る(地下1階が図書館の入口になります)

書架は全面開架式の閲覧方式を採用していますので、利用者は一般図書だけでなく、研究書や外国語図書、雑誌のバックナンバーなどをいつでも自由に手にとって閲覧することができます。また、閲覧席は309席で、1人用・4人用・6人用などに色分けされた座りごちのよい椅子を用意しました。

館内のマルチメディアルームは、マイクロ資料やビデオ、カセットテープなどの資料だけでなく、CD-ROMやDVDなども利用できます。

パソコンルームでは、利用者が自分のノートパソコンをLANに接続して、図書館資料を手元に置きながら学習することができます。また、目録(愛称:GEMMA [ジェンマ])検索専用端末を操作することにより、名古屋図書館の資料を取り寄せることも可能です。

開館時間は、授業日が9時15分から20時まで、授業日以外が9時15分から16時30分までです。なお、2000年度の土曜日は休館となります。

みなさんのご利用をお待ちしています。

(Akira TSUCHIYA: 瀬戸図書館担当 土屋 玲)

新入生歓迎企画展

完全大学生生活マニュアル！

～大学入った、なにしよう？～

4月1日（土）～4月15日（土）**名古屋図書館 1階ブラウジングコーナーにて開催**

新入生諸君！！ 南山大学へようこそ。新しいことを始める季節です。学業はもちろんのこと、自分磨きもスタート！ 自信、能力、自分らしさを身につけるヒントとなる図書館資料をテーマ別に紹介。図書館は君の知的活動を徹底的にサポートします！

もっと、読書！

読む本、見る本、調べる本… 本もいろいろ、図書館と如何につきあうか。

アルバイトするなら…

社会勉強の第一歩、かせぐだけがバイトじゃない。

どうする!?試験

ドロ縄のテスト勉強やレポート書きから抜け出そう!

語学は必要

「語学の南山」、第二・第三外国語は当たり前!? その前に日本語だ…。

異文化との出会い

日本から外を見る、外からも日本を見る。グローバルな視野を養うには。

楽しい課外活動

食べる・観る・遊ぶ、名古屋的生活を充実させよう。キャンパス周辺のスポットも紹介。

だいじな人間関係

人生を美味しくするちっちゃな一言、貴方の心に届けます。

とりたい!資格

人気の資格、持ってて得する資格、今のうちに取っておきたい資格、いろいろ教えまーす。

みつけよう!将来の仕事

先も見ながら過ごす学生生活、気になる就職状況は?

情報社会に取り残されるな!

こんなものまで"デジタル化"? テレビも福祉もケータイも?!

資料紹介

今年度、大型予算で購入したものの中から2点をご紹介します。

＜マイクロ版・CD-ROM版 近代文学館＞

文章倶楽部 [CD-ROM版]



凶災の印象東京の回想(8年10号)

編集・刊行 日本近代文学館

請求番号[CM/910/3]マイクロ室



創刊号表紙

「文章倶楽部」は、大正5年5月～昭和4年4月(通巻156号)の間に、新潮社から発行された啓蒙的文芸投書雑誌です。大正文壇の成立に合わせて、最も縁のある「新潮」の隆盛に呼応し、年少の文芸愛好家を対象として創刊されました。

当時の他の文芸雑誌に掲載された話題作を紹介したり、読者の年齢や嗜好に合わせた記事やアンケート、文芸親話といった硬派の記事がある一方で、文壇ゴシップも毎号掲載されています。また翻訳ものの特集など海外文学も扱っています。

編集レイアウトも凝っており、文壇の状況、文士の生活を反映した記事から当時の文学の動向をたどることが可能な、近代・現代文学の研究上重要な資料です。

＜類書＞

マイクロ版近代文学館①「新 潮」(全巻490冊・フィッシュ枚数1,317) ZMF/910/1

マイクロ版近代文学館③「文章世界」(全巻216冊・フィッシュ枚数 761) ZMF/910/2

マイクロ版近代文学館④「新 小 説」(全巻402冊・フィッシュ枚数1,456) ZMF/910/3

Bulletin Hispanique

Annales de la faculté des lettres de Bordeaux. v.1-76 (1899-1974)

請求番号[Z/230/B88]書庫B1雑誌

この雑誌は Hispanic Review (Univ. of Pennsylvania), Bulletin of Hispanic Studies (Univ. of Liverpool), Nueva Revista de Filología Hispánica (El Colegio de México) などと並んで、非常にレベルの高い学術誌であり、分野もスペインおよびラテンアメリカに関する歴史、文学、社会学とかなり広範囲にわたるのが特徴です。使用言語は主にフランス語とスペイン語ですが、英語の論文も含まれます。史実の裏付けとなるような古文書や未刊の公文書・私文書が発表されることも度々あることから、大変貴重な論文雑誌であると言えます。なお、Vol.77 (1975) 以降のものは継続購入しています。

(Chikako YOSHIDA: 閲覧・参考係 吉田 千佳子)

Essay

大学入学の頃

辻本裕成

葵祭を見に行っただのがきっかけだった。「まあ、折角京都の学校に通ってるんやし、それに今日しか見られへんのやし」と自分に言い訳をして授業をさぼって五月の半ばに行われる葵祭の行列を見に行っただ。一回さぼって免疫が出来ると後は奈落の底。その日以来、私はほとんど教室に行かなくなってしまった。葵祭が、秋の頃ならまだよかったのだけれど、葵祭は五月である。私は大学に入るとほとんど同時といってもいい時期に、授業からはドロップアウトしてしまったのである。

もっとも、葵祭はきっかけにすぎなかった。私の通っていた大学は「文学部学生」として入学し、三年生になる時に専攻を決める仕組みになっていた。とりあえず文学部に入り、何を学ぶかはゆっくり決めればいいと私は思っていた。しかし、いざ入学してみると、大学には、早くも自分の目標をはっきりとさだめ、走り出している同級生達が何人かいた。高校時代から発掘に参加していたという考古学をめざす男、カントだとかヘーゲルとかを読んでいる哲学をめざす男、専門書をばりばり読んでいる日本史専攻の男、劇団に入って重要な役をもらい、書いた小説でみなを感心させた男……。そんな中、少しばかりあった自らの才能への信頼も、やる気もなくなってしまい、学業への興味、執着を既に失っていたのである。

思えば、不思議な学生生活であった。授業には出ないのに、うちにいてもしょうがなく、それに定期も持っていたので、毎日一時間半もかけていっとう学校には行くのである。それでは一体どこで何をしていたのか？

物を食わないのに学食に居座るのは気が引ける。喫茶店は金が要る。屋外のベンチでは暑さ寒さがしのげない（だいいちベンチに男一人で座っているのは大変みじめである）。となれば行くところは図書館しかない。そんなこんなで大学生活

の極めて多くの時間を図書館で過ごすこととなった。

考えてみれば図書館ほどすばらしい娯楽施設は他にない。冷暖房完備、入場料無料、適度に広く階段もあって運動になり、そして何より、本という、最高のおもちゃが揃っている。

「門前の小僧習わぬ経を読む」という諺がある。本の背表紙をながめ、時には目次だけばらばらとめくる。あとで思えば、それだけで随分多くのことを吸収できた。曲がりなりにも私が研究者となれたのは、良き師友（三年生の一年間だけは極めて熱心に授業を受けた）に恵まれたおかげであるが、一つには甲斐性がなくて暇をつぶす場所が図書館であったせいであろう。

大学院に入った時、親しくしていた先輩が、別の先輩に今度院に入ってきた辻本というのを知っているかと尋ねたら、その人はこう答えたという。

「ああ、つじもとくん。あの図書館でいつも居眠りしている子ね」

自分では読書していたつもりだったが、どうやら学生時代の私は図書館で寝てばかりいたらしい。うん、図書館報にあわせて図書館利用の模範を垂れるつもりであったがこれでは悪い見本である。

さて、南山の図書館だが、時として、必ずしも安眠に適さない。館内で携帯電話を鳴らしたり、おしゃべりのためにやってくる一部の不心得者がいるからである。すべからく、図書館は安眠に適した場所ではなくてはならない。むしろ、寝る者のためにではなく、本を読む者のために。

（追記 猶、自分のことを棚に上げて人のことを叱るのが教師という職業なので、私は南山の学生が授業をさぼるのは許しません。）

（Hiroshige TSUJIMOTO：人文学部助教授）

南山大学図書館に所蔵されている本や雑誌、
CD-ROMなどのうち“知ってよかった！”
そんな資料を取り上げて紹介するコーナーです。

日経全文記事データベース 日本経済新聞 CD-ROM 版

■日本経済新聞も手軽に記事検索できるようになりました!

これまで、新聞記事を探すには、縮刷版についての索引や索引検索データベース ASAX（朝日新聞記事見出し）を使う方法、記事検索データベース DNA（朝日新聞記事全文）を使って検索する方法、日経ニュース・テレコンを利用する方法がありました。しかしこれらは、記事の所在を確認した後、そこから新聞原紙や縮刷版にあたるという手間がかかったり、無料で検索できる記事が朝日新聞だけだったり、全文検索ができて有料だったり、何かと不便でした。ところが、このデータベースを使うことによって、日本経済新聞も全文記事検索がパソコンを使って簡単にできるようになりました。

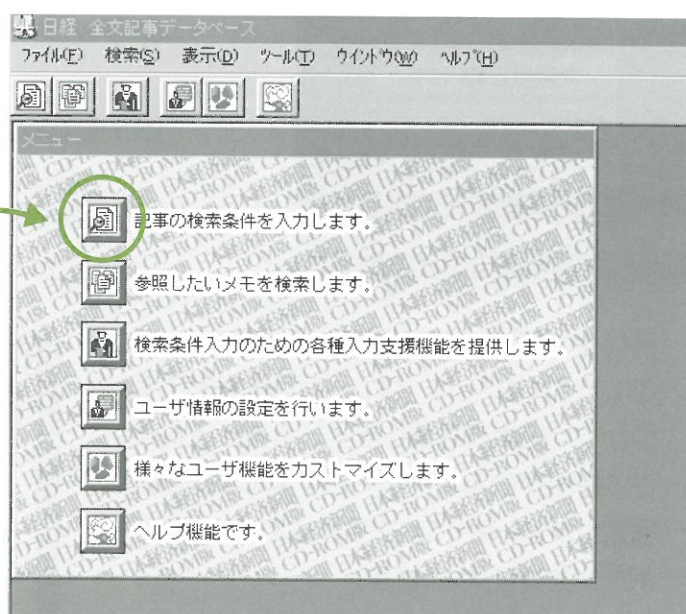
■こんなことが調べられます!

このデータベースでは、1995年から1998年の日本経済新聞東京本社発行の朝・夕刊最終版の記事、および全国地方経済面の新聞記事がそれぞれ全文記事形式で検索できます。また、社説や談話室などのようなコラムを検索することもできます。ただし、表、図、写真、および日本経済新聞に著作権のない寄稿記事は見られません。

検索してみましょう!

まずはここをクリックして、
「キーワード入力画面」を開きます。

ここを
クリック



キーワードを入力して記事検索

検索したい記事を特定できるキーワードを入力します。キーワードは全角文字、半角文字どちらでも入力できますが、一つのキーワードの中で全角、半角を混在することはできません。また、全角の場合、新聞表記どおりに入力しないと、検索内容が異なったり、検索されないことがあります。

(例)「ウィンドウズ」をキーワードにする時、「ウインドウズ」と入力すると395件の記事が見つかりますが、「ウインドウズ」と入力するとたったの4件しか検索されません(1998年分の場合)。

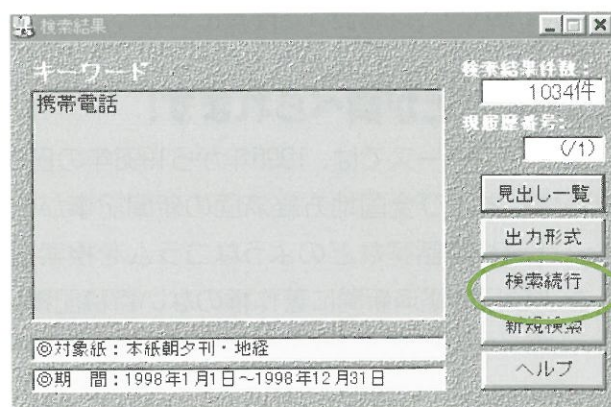
キーワードを入力したら、画面右上にある「検索」ボタンをクリックします。



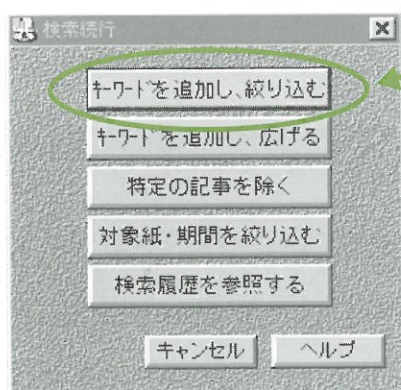
ここをクリック

検索結果

検索結果が表示されます。この画面では、検索された記事の件数が、画面右上に表示されます。この件数を参考に、結果の内容を表示するか、検索範囲を絞るか広げるかを判断します。



ここをクリック

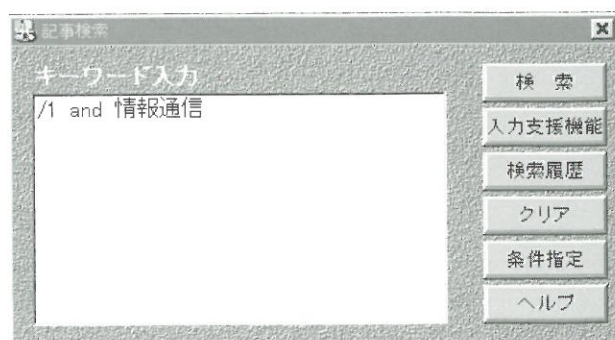


ここをクリック

(例) 検索結果を絞ってみる

一回目の検索では件数が多すぎる、と思ったらさらに条件を指定します。「検索続行」をクリックします。ここでは、キーワードを追加して絞ってみましょう。

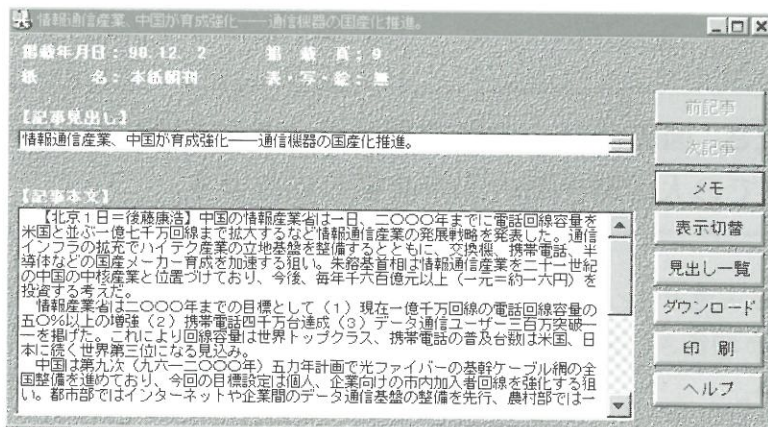
再びキーワード入力画面にもどります。ここにでてくる「/1」は、一回目の検索で見つけた記事群を表します。今度はその中から追加されるキーワードを含んだ記事を検索します。キーワードを入力して「検索」ボタンをクリックします。



検索結果を見てみましょう

検索してきた記事がどういうものか、まずは見出しで確認します。「見出し一覧」ボタンをクリックして下さい。

記事の見出しが新しい順に表示されます。一画面に収まりきらない時は、スクロールバーをクリックして、収まらなかった見出しを確認して下さい。必要な記事が見つかったら、その見出しをクリックして反転表示させ、「本文」ボタンをクリックします。



■もっと新しい記事を見たい時は？

残念ながら、このデータベースでは現在のところ、前年までの記事しか検索することができません。そこで、もっと新しい日本経済新聞の記事を検索したい時は日経ニュース・テレコンか、Nikkei goo をご利用ください。

日経ニュース・テレコン

1975年からの日本経済新聞社発行の新聞4紙と日経BP社発行の雑誌(97年3月発行分まで)の記事のほか、国内主要紙などの記事を収録しているオンラインデータベースです。前日発行分まで全文検索できますが有料で、利用時間の長さなどによって料金が異なります。また、これは図書館員による代行検索となります。

※このほかに、日経テレコン21があります(こちらも代行検索です)。情報の内容はニュース・テレコンとほぼ同じですが、当日の発行分まで見ることができます。料金は利用時間にかかわらず利用した情報の量(見出し、本文など)によって異なります。

Nikkei goo(<http://nikkei.goo.ne.jp/>)

日本経済新聞社発行の新聞4紙の最近1年分の記事を、自分で、無料で検索することができます。ただし本文は出ません。

< Nikkei goo への道 >

南山大学図書館ホームページ→検索/リンク集→リンク集→図書館関連の情報の一番下の方にある新聞・雑誌記事情報のうち、日本経済新聞のボックスを選択→画面上部、中央あたりにあるNikkei gooをクリック!

※1999年分より、日本経済新聞の縮刷版は冊子体からマイクロフィルムになりました。

こちらをご覧になる際は図書館員まで声をおかけ下さい。

(Shiho KOBAYASHI: 閲覧・参考係 小林 志保)

図書館あれこれ

50年インタビュー

(後編)

前号に引き続き、図書館員の内藤英明氏とともに昭和24年の創立から、現在にいたるまでの大学図書館の50年を振り返ります。

Q. 山里町(現在の名古屋キャンパス)に引っ越してから図書館が増築されるまでについて聞かせてください。

内藤: はっきりとは覚えていませんが全館開架式^{*1}になって、それまでの出納がなくなり、学生は入館時に学生証を一旦カウンターへ預けてロッカーの鍵を受け取り図書館を利用することになりました。当時は、そのやりとりが面倒だと思いましたが、今では、あの頃がとても楽しかったように思います。

私は、初め閲覧係で、次は和書の整理をやりました。それから、洋書の整理をして今も洋書を担当しています。ある日、ロシア語の図書を沢山持って来て『これをやりなさい』ってね。何が書いてあるかももうわけがわからなくて毎日辞書を見ていましたよ。(笑)しかし、これが後になってみると、良い勉強になったと、とても感謝しております。

当時館内は、一階閲覧室ほぼ中央にガラスで仕切られたレファレンス室があって、館員が常駐していました。また、現在の人類学研究所の展示室が地下一階にあって、その隣に礼拝室(現マイクロ室)もありましたね。また、三階にレコード室があって、音楽の授業がある時にはよくお手伝いをしたこともあります。

一度、二階にあった統計資料室で小火があったこともあります。

Q. 資料によると昭和48年頃より入館時の所持品制限や退館時の所持品チェックを行っていたそうですが、利用者の反応はどうでしたか。

内藤: 以前からあったことなのでこれといったことはなかったと思います。しかし、ごく稀ですが鞆の中を見せてもらったこともありました。

Q. 昭和50年頃より開館延長を始めたそうですが、利用者の反応はいかがでしたか。

内藤: 多分喜ばれたと思います。学生は、かなり利用したのではないかと思います。館員も開館延長に合わせて時差出勤をしたこともあります。

Q. 昭和52年11月17日の集中豪雨で図書館が冠水したそうですが、この時のことを聞かせてください。

内藤: (写真を見ながら) へー、こんな写真が残っているんですね。

翌朝、出勤したら排水溝やコンクリートから漏れた雨で、沢山(約5万冊)の図書が被害にあっていて、事務室といわず、図書館中に本を広げて乾かしたり、毎日毎日、本にアイロンを掛けたりしました。当時館長だった石黒氏が、ジャージ姿で現れて、『何か手伝う事はありませんか。』と声をかけ、手伝っていただきました。

使えなくなった本もあります。本が乾くには、一ヶ月くらいかかったかと思います。

Q. 昭和55年に図書館の増改築が行われて、現在の図書館となりましたが、当時の様子を聞かせてください。

内藤：本の数が増えて増築ということになったのですが、全館開架式^{*1}のままで資料が多すぎて管理しきれなくなり、書庫をもうけて半閉架式^{*1}になりました。

図書の整理方法も、請求番号をそれまでの著者記号表^{*2}によるものから、現在の一対一対応の受入番号制に変え、つぎに、件名^{*3}の目録カード作成もやめ、目録カードの種類も必要最低限に押さえました。

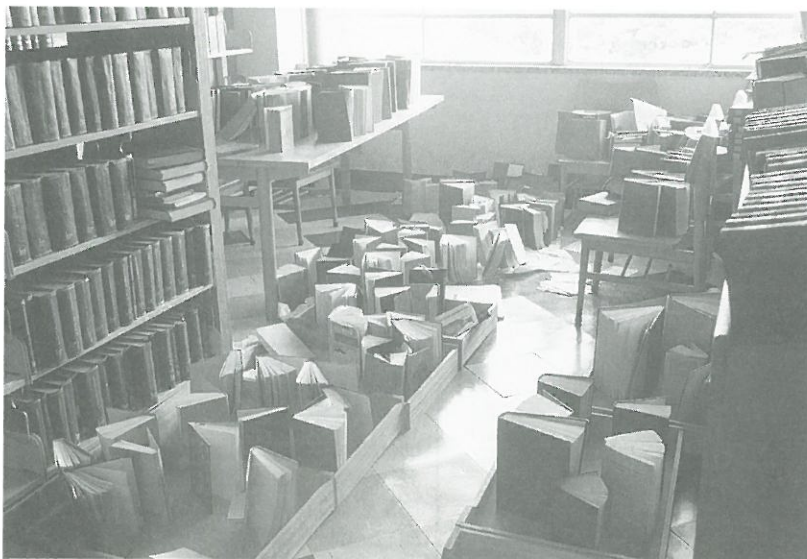
利用者からの反対もあったかもしれませんが、図書館内も組織化されていたので、私の場合は、直接的に（苦情を）聞くことはありませんでした。

ただ、やはり返本などの書架の管理に係る作業が大変で、私もデュナミスに「本は、返本台に返すように」とお願いの記事を書いたこともありますよ。



閲覧室に吊干しされた本

図書館は、昭和58年より順次コンピュータ化され、昭和63年には GEMMA によるオンライン目録検索サービスも始まりました。以来、改善を繰り返して現在にいたっています。図書館員の奮闘振りが垣間見られたでしょうか。内藤さんご協力ありがとうございました。



乾燥のために閲覧室に広げられた本

*1 開架式：書架に自由に接して資料の利用ができる方式。

閉架式：利用者は、目録で資料を検索し、図書館員に請求して自分の利用したい資料を利用する方式。

*2 著者記号表：同一分類記号の中の配列順位を決めるために著者名の一部に数字などを加えて記号化し表にしたもの。

*3 件名：ひとつの資料に盛り込まれた主題やテーマを表現するキーワードのこと。

名古屋図書館

春期図書館利用講習会のお知らせ

図書館を使いこなすための利用講習会です。
個人でも、ゼミ・授業単位でも参加できます。

講習の内容

初 級

大学図書館の基本的な使い方を説明します。
図書館内を歩きながら本や雑誌の置いてある場所をご案内します（ライブラリーツアー方式）。1・2年生向きです。

中 級

主に卒業論文やレポート作成のための資料収集について詳しく解説します。あなたの目的に合った資料のある場所を図書館内を歩きながら案内したり、CD-ROMやデータベース、インターネットなどを使った効果的な資料の探索方法などを紹介します。3・4年生向きです。

開催日程

4月12日（水）～ 6月30日（金）

所用時間

約60分

申込方法

名古屋図書館1Fレファレンスカウンターで受付します。

※瀬戸図書館での利用講習会については、別途お知らせします。

延滞料金値上げのお知らせ

この度、2000年4月1日から図書館資料の延滞料金を下記のとおり値上げいたします。延滞行為は他の利用者の迷惑となりますので返却期限を厳守するようお願いします。

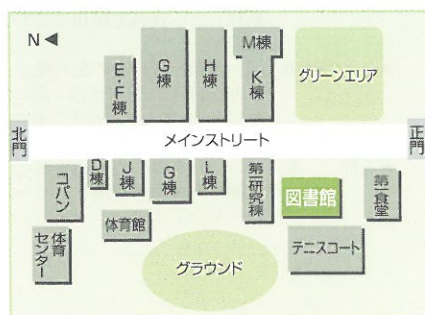
記

1冊 1日 100円

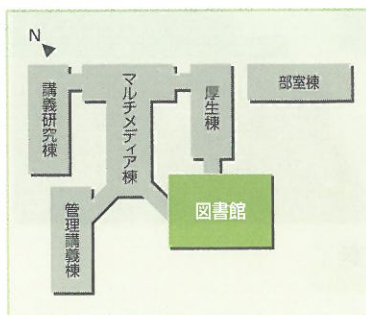
なお、年度を越えて延滞した場合は、3月31日までは1冊1日10円、4月1日からは1冊1日100円で計算し延滞料金を徴収いたします。

《編集後記》

移りゆく時代の中で図書館もまた変わる。しかし、書物を愛する人々の心は変わらない…。時の流れの中からの便りを、そっとお届けします。（近）



<名古屋キャンパス>



<瀬戸キャンパス>

南山大学図書館報 デュナミス No.37

2000. 4. 1 発行

<http://www.nanzan-u.ac.jp/TOSHOKAN/>

発行：南山大学図書館 広報委員会

編集委員：松井、近藤、吉田、伊藤

印刷：一誠社

〒466-8673 名古屋市昭和区山里町18

Tel: 052(832)3707/Fax (G3):052(833)6986